



朝日子だより

社会人編 Vol.16

吉田高校の皆さんへ

昨年専門学校を卒業して、高校時代からやりたかった仕事に就いた社会人1年目です。将来の目標が定まっている人もそうでない人も、こんな人間も吉高にいたことを知ってもらい、少しでも皆さんが今後について考えるお役に立てれば幸いです。進路実現に向けて頑張ってください。

小佐野 萌 (平成27年度 普通科卒)
サンラリーグループ アスプリ株式会社 所属 (デザイナー)
武蔵野ファッションカレッジ 卒

仕事の内容

デザイナーとして働いていま

す。…というただ自分の好きな服の絵を描いて終わり、と思われがちなのですが、実際は デザイン→型紙作成(パタンナーと相談)→サンプル(見本)作成→展示会→仕様書(設計図)作成→中国で量産するための手配→納品、という流れのほぼ全てに関わっています。自分の絵型を描かせてもらえるようになったのはつい最近のことで、最初のうちは展示会サンプルの管理や仕様書の作成などを通して業務の流れを少しずつ学んでいきました。

職場の様子

先輩後輩関係なく「よろしくお願ひします」「ありがとうございます」「お疲れ様です」などの言葉が溢れているな、と感じます。また、90人以上の会社にもかかわらず、いい意味で上下関係がないのも特徴だと思います。私のような新入社員でもチーフに直接デザインを提案したり、仕事をしていく中でやりにくいなと思うところを変えていける、居心地の良い職場です。



就職前と就職後の印象の差

実 は冒頭で書いた「ただ自分の好きな服の絵を描いて終わり」というのは就職前に私が持っていた「デザイナー」という職のイメージだったので、入社してからは毎日ひとりで黙々と作業をするんだろうな、と思っていました。しかし実際に入社してから、自分が描いたデザイン画を元に型紙を引いてくれるパタンナー、サンプルを作ってくれる縫製工場、服を売ってくれる営業、何百枚もの製品を作ってくれる中国の工場、納期を管理してくれる生産、というように、さまざまな部署と関わりながら物作りをしていくことを知って、服作りの難しさや楽しさをより強く感じられるようになりました。



学生と社会人の違い

デザインの目的が変わったかな、と思います。学生時代は自分の考えを「服=作品」に落とし込むことがゴールだったので、自分の考えをいかに深められるかが大切でした。しかし社会人になった今は利益のために「服=商品」をデザインするため、実際に売り場を見たり、セミナーや雑誌からトレンドを勉強したりすることが大切になっています。

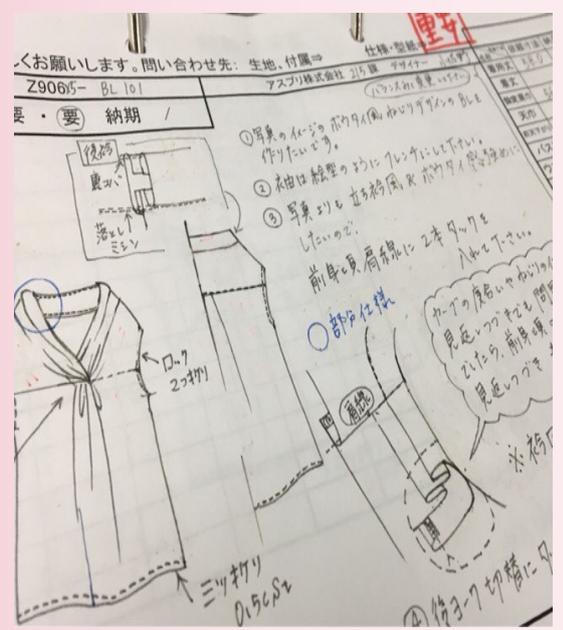
いま役に立っていると感じる 高校時代の経験



大きく分けて2点あります。

大 1点目は3年間の学習です。高校に入学して少し慣れてきた頃、「こんな事を覚えて将来何になるんだろう。」「他の課題で手が回らないからこの課題はやらなくてもいいか。」とってしまった時期がありました。しかしある時、「今はやらなくても許されるかもしれないけれど、社会人になったら教えられたことは全部覚えないと仕事にならないし、仕事は全部期限内に仕上げて提出しないとイケないんだ。」とあってから、出されている課題を利用して、自分に一番合った記憶法と、期限までに全ての課題をやりこなす方法を見つけることにしてみました。すると、実は書いて覚えるより自分で書いた文字を何回も読んだ方が早く覚えられること、夜より朝のほうが覚えられる量が多いこと、闇雲に手を付けるより最初にしっかり計画をたててから取り組んだ方が早く終わることなど、今まで知らなかったものがたくさん見えてきて、それが今でも仕事をする上で役に立っています。(勿論試す中で全く上手くいかないものもありましたが、失敗が許される高校時代に色々な方法を試して、たくさん失敗しておいて本当に良かったと思っています。)

2点目は部活動です。私は吹奏楽部に所属していました。そこで、顧問の先生方や部員の皆と関わりながら社会人としての基礎の基礎を学ばせていただいたような気がしています。特に私は定期演奏会の運営を通して、報告・連絡・相談を必ずすること、自分に与えられた責任をしっかりと果たすこと、チーフにたくさんの仕事を抱えさせないようにすることなど、ここに挙げきれないくらい大切な事を学ぶことができました。結局最後まで楽器が下手で、迷惑をかけ続けたまま引退したことが若干の心残りですが、最後まで吹奏楽部員として活動できたことは今の私にとって本当に大きな支えになっています。





吉高生へのメッセージ

最

最後まで読んでいただきありがとうございます。実は私は小学校の卒業文集に「ファッションデザイナーになる」と書いてからずっとそれだけを目指にしていた、高校入学時にはすでに専門学校に進学する事も決めていました。在学中、「専門学校に行く=勉強ができない(勉強をしない)」というイメージを持たれるのが嫌で、できる限り時間を割いて勉強していたら、先生方から「せっかく吉田高校に入ったのだから、大学受験に挑戦してみたらどうだろう」「大学に行ってから専門学校に進む手もある」など、将来の私の職業選択を狭めないようにするためのアドバイスをたくさん頂きました。しかし、絶対最速でデザイナーになりたいくて、最後まで大学受験のことを考えることはありませんでした。

それだけの意思を持って進学しても専門学校在学中には高校時代に頂いた言葉を思い出し、「やはり大学に行くべきだったのかもしれない」と思うこともありましたが、現在20歳という年齢でデザイナー職に就くことができ、自分の思う道を突き進んで本当に良かったと思っています。高校は大学に行くための通過点的な機関ではありませんし、卒業してから最期までの人生を人に流されて決めてしまうのは少し勿体無いような気がします。

**なりたい自分になるための進路
選択をしてください。**

あなたのこれからの人生に幸あれ！

